



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 28 年 8 月 10 日号



糖尿病看護認定看護師の紹介

看護師長 成田 圭子

第 24 回認定看護師認定審査で、糖尿病看護認定看護師の資格を取得いたしました、成田圭子と申します。青森県で、6 人目の糖尿病看護認定看護師となります。

私は 2015 年 4 月から 2015 年 11 月までの 8 か月間、東京都清瀬市にある、日本看護協会看護研修学校の認定看護師教育課程で学ばせていただきました。日本看護協会看護研修学校は、救急看護学科、集中ケア学科、皮膚・排泄ケア学科、感染管理学科、小児救急看護学科、認知症看護学科、糖尿病看護学科の 7 学科があります。総授業時間数 810 時間で共通科目、専門基礎科目、専門科目、演習、実習を行いました。共通科目は 7 学科総勢 205 名での授業やグループワークがあり、それぞれの分野の視点でディスカッションすることができ、視野を広げることができました。専門基礎科目では、疾患と患者・家族の対象理解、対象に応じた援助方法を学びました。専門科目では、ライフステージや合併症の病期に応じた療養支援を学び、演習では、フットケアや血糖パターンマネジメント、糖尿病ケアシステムを学びました。全国から、糖尿病看護について深く学びたいという熱い思いをもった 23 名の仲間と熱心に指導して下さる教員のもとで学べたことは、私にとって本当に貴重な時間でした。

糖尿病患者は、生活習慣の変化や高齢化に伴い、増加の一途をたどり、セルフケアが困難となっている患者が増えています。また、糖尿病は慢性疾患であり、患者は生涯糖尿病と付き合いがなければなりません。その長い療養生活では、様々な困難があり、制限された生活を送っています。私は糖尿病看護認定看護師として、患者が糖尿病を抱えながらも、自分らしく、生きがいを持ち、充実した生活が送れるよう、伴走者となり支援していきたくと考えています。

また、院内の糖尿病ケアチームの活動を活発にしていきたいと考えています。そのためには、自己研鑽をつんでいる糖尿病療養指導士やリンクナースが生き生きと糖尿病看護を実践できるように指導・相談役割を果たしていきたいと思っております。入院患者の療養支援カンファレンスの充実や困難事例への介入、研修会の開催などを積極的に行っていきたいと考えています。未熟な私ですが、少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。



フットケア外来の様子



外来担当医表

随時更新しておりますので、下記の URL からのご確認をお願いします。







<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>

平成28年度 第1回 医療の質・業務改善発表会開催

業務課 吉田武範

8月2日（火）に、教育研修委員会主催にて「第1回 医療の質・業務改善発表会」が開催されました。昨年までは「院内研究発表会」と題していましたが、部署および職員間の連携を図りつつ、当院の医療の質の向上を進めるための発表会にしたいとの意図から、従来の募集内容を拡大しチーム活動のほか、業務改善・経営改善・学術研究報告の部を新たに設けての開催となりました。

松野管理者からは「前からより広い分野での事例発表を考えていたので、新たに改善事例の部が加わったことで、発表の幅が広がって嬉しい」と挨拶があり、講評では丹野院長が「以前より発表のレベルが上がり逆に細かいことが気になるようになった。より説明内容を訴えかけるような、視覚的な工夫を考えてほしい」と、第2回目に向けて一層レベルアップを期待する言葉をいただきました。質疑応答についても、司会進行の成島先生の的確なリードもあり活発に行われ、参加者からはとても充実した内容だったとの声が聞かれました。

	演 題：地域包括ケア病棟開設後の医療安全について 筆頭演者：看護局・5階東病棟 看護師 高橋 美津子
	演 題：外来における「床ずれ予防問診票」の結果と課題 筆頭演者：褥瘡対策チーム・外来1 看護師 速水 久子
	演 題：術後せん妄に対する予防的介入と薬剤師の関わり ～術後せん妄を既往にもつ患者に対して～ 筆頭演者：薬局・薬剤師 高屋 優一
	演 題：新人看護師教育体制のステップアップに向けての取り組み 筆頭演者：看護局・救急室 主任看護師 及川 千賀子
	演 題：糖尿病患者のフットケアの質向上に向けての取り組み 筆頭演者：看護局・地域医療連携室 看護師長 成田 圭子
	演 題：外来でのがん告知時 STAS-J 評価の取り組みと今後の課題 筆頭演者：看護局・看護ケア支援室 主任看護師 八重樫 学



渡り廊下の展示ご案内

当院には北側と南側に、全長約60mの長い渡り廊下があります。

陽当りの良い南側の渡り廊下は、病院外部の方々の作品の展示などに利用され、作品を見て頂くにはちょうど良い空間になっています。今は、南側廊下の本館寄りに「看護局のフィッシュ活動」の紹介パネルを展示しています。

看護局では、入院患者様やご家族の方に喜んでいただき癒しになってほしいという願いを込めて、各階の病棟の飾り棚の装飾を季節毎・または月毎に行っています。担当看護師が撮影し綺麗にデザインしたものを、平成21年度分からの『職員の意識の向上につなげてきた活動』をパネルにして展示しています。どうぞ来院の際は、本館2階南側渡り廊下へお立ち寄りください。

